

## 平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号	11 05 09	中期総合計画主要施策番号	3-08	担当課	部・課	建設部河川課	
事業名	ダム施設改良事業(公共【河川】)			内線	3441		
				E-mail	kasen@pref.nagano.jp		
事業の概要等	事業の目的	松川ダムにおいて貯水池の機能回復及び予備放流の解消を図れるよう、貯水池への流入土砂を軽減する洪水バイパスの建設、ダム機能を回復する貯水池掘削を実施し、洪水調節及び河川の流水の正常な機能の維持を図る。					
	事業の必要性	【現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)】 昭和58年台風10号等による上流域荒廃のため、計画を大きく上回る土砂が貯水池へ流入し利水・治水容量が不足したため、有効貯水容量を確保する掘削を行っている。					
		【原因分析(ギャップが発生している原因は何か)】 昭和58年台風10号やその後の平成5年及び11年梅雨前線豪雨により上流域の荒廃が予想以上に進み恒久的な対策が求められていた。					
		【課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)】 ダム貯水池への土砂流入を軽減するため、洪水バイパス施設の建設とともに貯水池掘削を実施しダム機能を維持する必要がある。					
	事業内容	・貯水池の機能回復と予備放流解消のため貯水池掘削の実施 ・再開後、貯水池への流入土砂を軽減する土砂バイパスの恒久堆砂対策の実施 治水ダム建設事業(補助率:【国】1/2、【県】1/2)					
実施期間	H2 ~	根拠法令等	河川法第9条				
成果と達成状況	事業の目指す成果	達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況	評価	
	ダムの貯水機能回復のため洪水バイパス施設工事を進めるとともに、有効貯水容量を確保するため貯水池掘削を実施し、ダム機能を維持し適切な河川管理を図る。(基準年:H5年度有効貯水容量(4,135千m <sup>3</sup> ))	バイパストンネルをL=30mを完成させる。			バイパストンネルL=30mの施工完了。これにより、バイパストンネル区間が終了した。全体の工事進捗率は42%となった。	a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下	
事業コスト	区 分	単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要	
	最終予算額 (A)	千円	310,000	526,406	370,000	国庫・県単	公共
	決 算 額 (B)	千円	300,700	342,031		実施方法	直接
	B(H21はA)のうち一般財源	千円	15,000	1,016	2,000	歳出節別	予算現額(最終予算額+繰越額等) 526,406
	概 算 人件費	従事する職員数	人	3.00	3.00	内訳等	
	概算事業費 (B(H21はA)+C)	千円	300,700	342,031	370,000	(単位:千円)	1カ所当たり平均工事期間 32.6年
事業実績	内 容	単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績	
	工事の進捗率	%	40	42	45		
	洪水バイパス施設	m	30	30	28	付替林道復旧工 L=95m	
	貯水池の掘削量	m <sup>3</sup>	0	0	0		
事業の課題	区 分	判 定 ・ 説 明					
	事業のニーズの変化	増加	横ばい	減少	判 定 の 説 明	・有効貯水容量は、計画時と同等の容量を確保しているが、土砂の流入は継続しており、貯水池への流入土砂を軽減する恒久堆砂対策が必要な状況である。 ・事業完了予定年が延びるため、残事業の施工計画等を見直すとともに、美和ダム洪水バイパス施設等の効果を検証し随時事業へ反映させることにより、事業の効率性を高める必要がある。	
	県の関与を見直す余地	余地なし	当面余地なし	余地あり			
	有効性を高める余地	余地なし	当面余地なし	余地あり			
	効率性を高める余地	余地なし	当面余地なし	余地あり			
課題の総括	概ね期待どおりの成果が得られており、さらに事業のニーズは依然として高い。しかし、残り事業年数が伸びるため、事業の一層の効率性を高める方策の検討が必要である。 平成17年度供用を開始した美和ダム洪水バイパス施設等の効果を検証し、随時事業へ反映させていく。						